

ことばの使い方、どんなことばをどのように使って表現するのか(意味づけるのか)は、その使い手の頭の整理(生理)に重大な影響を与えていると、私は考えています。また逆に、自分の頭をどう自分らしく整理するかで、使うことばが決まってくるとも言えるでしょう。作者不詳の「思考」というタイトルの文章があります。私の理解で要約すれば「言葉に気をつけなさい。それはいつか行動になるから」というものです。そしてその行動は、習慣になり、性格になり、最後にはその人の運命になるというのです。例えば、国と政府ということばの使い分けで、私たちにはどのような運命が待っているのでしょうか。それによって、私たちの行動はどう条件づけられるのでしょうか。

自己の都合に合うよう情報を操作する(やらせ)について、九州電力に次いで中部電力や四国電力においても、似たような事例のあることが報道されました。この(やらせ)も、ことばの集合である情報を操るという意味で、ことばの使い方です。原発推進を働きかける(やらせ)指示を出していたとされる経済産業省のトップ、海江田万里大臣は緊急記者会見を開いて、「国が意見を誘導していたのなら、申し訳なく思う」と謝罪しました。この場合の国というのは、政府やその機関のことです。国の構成要素が、国民と領土と政権(官僚機構も含む政府)の3つとすれば、最後の政権だけで国を言い換えていることとなります。国民を代表し政治権力を握っている人間が悪いと言わずに、謝る場合には、負担を強いる場合にはなおさら、除いた国民や領土も巻き込んで謝罪するのです。

B型肝炎訴訟についての談話の中で、菅直人さんは内閣総理大臣として、「薬害エイズ問題で、厚生大臣として国の責任を認めて謝罪して15年」と言っています。これも、国民や領土を巻き込む形の海江田さんと同じ使い方です。先月書いたように、命令は職権を持つ少数の人たちで行い、その結果たとえ失敗しても彼らは責任を取らずに保身を図り、国民や領土が手痛い打撃を受けることになる。菅さん自身が言うように、15年経って別の分野で不幸な運命の繰り返しが発覚したことになります。福島原発事故を考えると、これもまさに国民や領土が致命的な損害を被っている実例でしょう。

7月の寺報7ページに、ガンジーの「7つの社会的罪」を最後の締めにした小出裕章さんの話が掲載されていました。私は、それらをすべて包み込む8つ目があると思うのです。整理(生理)なき頭、です。それは、自分なりに情報を代謝して整理せずその人らしく自分の頭を働かせていない、つまり学んでいないということです。私たちが学ばないのは、さまざまな情報を整理されたくない、一人ひとり独特な脳の生理に基づく思考を無視して自己都合に合致するよう一元化したい、そんな人たちの欲するところです。私たちは常に、それぞれ何らかの傾向を持って学びますが、その偏向を多少とも修正可能なのは以前の誤りを取り入れ整理し直したことばの使い方をする場合です。不幸な運命を嘆くと同時に、私たちが今の思考で作出したものを一旦保留しましょう。新たな運命が訪れる前に、世界を捉える考え方(思考)の不具合を経験によって更新できるのは、個体差ある脳の生理を尊重して情報を整理している頭、なんです。そして私たちの社会には、それを可能にする十分な頭数は揃っています。



book 広瀬 隆さんが魂を込めて語った講演録。

「原発事故が起これば何も言うまい、話すまいと決めましたでも現地の状況を聞き、矢も楯もたまず、福島の子どもたちを救うために、お話しすることを決めました